

今日のトピック 米国のGDP成長率（2017年7-9月期速報値）

ハリケーンの影響をこなして安定成長を続ける米国経済

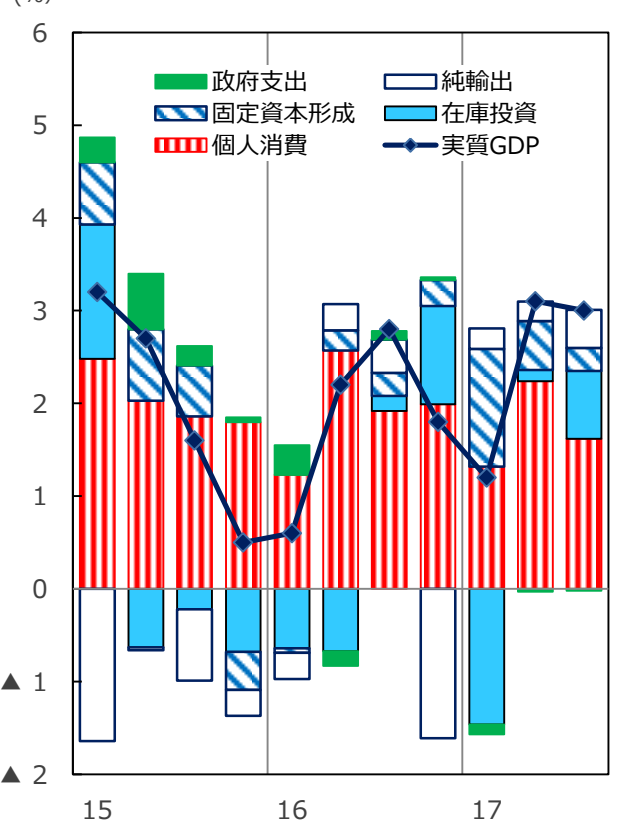
ポイント1 市場予想を上回る成長率 前期とほぼ同水準の成長を達成

- 米商務省が10月27日に公表した7-9月期の実質GDP成長率（速報値）は、前期比年率+3.0%となりました。4-6月期の同+3.1%とほぼ同じ水準となり、市場予想の同+2.6%を上回りました。在庫投資と純輸出の拡大が主因です。

ポイント2 純輸出と在庫投資が牽引 個人消費、設備投資も堅調

- GDPの需要項目を詳細に見ると、まず個人消費は前期比年率+2.4%となり、前期の同+3.3%からは鈍化したものの、堅調さを維持しました。住居費や光熱費といったサービス支出が鈍化したのに対し、自動車等の耐久財支出は引き続き好調でした。
- 設備投資は前期の同+6.7%から同+3.9%に鈍化しました。構築物投資がハリケーンの影響等もあり、同▲5.2%と減少に転じたことによるものです。機械設備投資は前期とほぼ同じ同+8.6%でした。
- 一方、在庫投資、純輸出（=輸出-輸入）のGDPに対する寄与度は前期のそれぞれ+0.12%、+0.21%から+0.73%、+0.41%に拡大しました。在庫投資の拡大は最終需要の増加に見合ったものであり、過剰感はありません。

【米国の実質GDP成長率】



(注) データは2015年1-3月期～2017年7-9月期。
実質GDPは前期比年率、その他項目は同寄与度。
固定資本形成は設備投資と住宅投資の合計。
(出所) 米商務省のデータを基に三井住友アセット
マネジメント作成

今後の展開 米経済は今後も拡大基調を続けよう

- 今後も米景気は緩やかに拡大すると予想され、米連邦準備制度理事会（FRB）は利上げを継続する見通しです。ただし、物価上昇率が低い水準で落ち着いているため、そのペースは緩慢なものになると考えられます。
- 27日の米市場では、株価、債券価格とも上昇しました。債券価格の上昇は、FRBの次期議長にパウエルFRB現理事が指名される可能性が高いとの報道を受け、現行の「緩やかな利上げ」継続との観測が強まったためです。

ここもチェック! 2017年10月23日 米『ページブック』、緩やかな利上げを支持
2017年10月20日 『次期FRB議長』は誰になるの？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。